



虹の小篋

森 朱 実

Akemi Mori



広島県生まれ

1952年 ファッションモデル第1号

1970年 万国博覧会、繊維館スーパーバイザー

1980年 ポートピア・コンパニオン(指導)として活躍。

著書に『夕映えのつぶやき』がある。

虹の小笛——にじのこぼこ——

昭和59年6月6日 第1刷発行

著者———森 朱実

大阪府豊中市中桜塚1丁目21の6

発行者———長野祐治

発行所———株式会社 N G S

大阪市淀川区西中島1丁目11-16 住友商事淀川ビル523号室

☎532 ☎06・308・3281代 振替 大阪4-13327

©Akemi Mori 1984 Printed in Japan

0603 ISBN4-915112-08-10 C5095 ¥980E

落丁本・乱丁本はおとりかえいたします。

定価はカバーに表示してあります。

印刷・製本／伸光クリエイト

虹の小筥



森

日本財団支援

笹川良一記念文庫

財団法人日本科学協会

NGS

豊かに生きる……

株式会社そごう
専務取締役神戸店長

山田 恭一

歳月の経過は早い。森朱実さんご縁があつてから二十年以上にもなる。当社大阪店が米軍より接収を解除され、華々しく再開店した時、他社に先がけて実施した専属モデル第一号としてご契約戴いたのがおつき合いの初めであつた。

以来、一時の中断期を除き、大阪店、神戸店、そしてそごうグループの各店の新入社員教育やファッション・アドバイザーとしてご指導を戴いているが、とりわけ神戸店では四十四年の増築を期にスーパースーパーとしてその役割に携つて戴いている。

その森さんがこの度、前作『夕映えのつぶやき』に続いて、姉妹編『虹の小笠』を発売されることとなつたのは誠に嬉しいことである。早速に一読させて戴いたのであるが、いつも変らぬ若々しい文体と、みずみずしい感性、何にでも強い興味を示される問題意識、そして何よりも共通して流れる人間愛ゆたかな考え方は経営者の一人として、又一人の人間としても大きな感動をおぼえる。

百貨店は対人業であり、労働集約産業であることはいふまでもない。販売員がお客さ

まに心をこめて接した時、立場を離れてハートツウハートなりレーションが生まれる。

ものをつくる人とバイヤーの関係、ものを売る販売員とスタッフの関係、仲間同志のヒューマンなりレーションはすべて人間の介在なくては成り立たない。

時代はいま、工業化社会から情報化社会へと大きく変貌しようとしている。技術革新が進み、ニューメディアの出現により、社会や我々のくらしは激しく変わるであろう。しかしどんなに科学や技術が進んでも、我々の企業活動やくらしの中での心の中までは大きく変えることは出来ない。

「すてきなくらしを提案」するのが我々百貨店人の地域社会に果す役割であれば、よりハートイな人間関係づくりこそ企業活動の中心軸として考えねばならない。ハイテクな時代にこそハイタッチが要求されるゆえんであろう。

森朱実さんの文章はこの科学万能の環境にともしれば置き忘れ勝ちな「こころ」の領域を大きな警鐘をもって問題提起されている。

「美しく生きる」「心ゆたかに生きる」はどんな時代になっても永遠の課題なのである。この書を読み終えた時、読者は独特のすがすがしきを感じられるであろう。

一人でも多くの人が、この書によって心ゆたかになれることを期待したい。

美しい女性^{ひと}

藤川延子デザイン研究所 所長

藤川 延子

明るいはほえみと、キメの細かい気くばりと、そしてまめまめしい立居振舞、森朱実さんという人はそれがみんなひとつになって、鮮明に目に浮かんでくる女性^{ひと}なのです。いつからのおつき合いか、忘れる程、遠い昔から絶えず私の心の傍にいる方でした。思えば随分お顔を見ていないのに、しょっちゅうお会いしている感じ、朗らかな笑い声が聞こえて来そう、それが朱実さんなのです。

——面白い旅の想い出があるのです。

まだのどかな時代、お嬢さんモデルを三人連れてのショウ旅行、というより講演と座談会の旅に一週間ほど、朱実さんとごいっしょにすることがありました。信州の美しい山々の間をのんびり走る列車の中、窓にあふれるような新緑のまぶしい光を浴びて、朱実さんは一層生き生きと美しく、賑やかなおしゃべりの間も編針をせっせと動かしながら、彼女のジョークに富んだ話題は尽きませんでした。

朱実さんといっしょにしていると曰ごろちよつと小生意気で我がままなお嬢さんたちが不

思議と素直にかわいくなり、すっかりうち解けた一行は訪れた先々でファミリーのようなおもてなしを受けたのを覚えています。

白馬の山麓、青木湖の畔のクラシクな豪邸の窓から銀色に光る湖を眺めながら、森さんと私は大まじめで、いずれその辺りに土地を買って、別荘を建てることにしようと思いを相談をしたものです。

去年の夏、私は穂高、安曇野に旅をして、不意に、青木湖を見たりしました。

白馬の麓まで車を飛ばし、青木湖の畔にしばらく立ちました。静かな湖面も湖畔にひっそり在った家も、そっくり昔のまま。

「そうだすぐ朱実さんに知らせなくちゃ」

瞬間、そんなことを想った自分をおかしくなりながら、彼女の優しいまなざしを思い浮かべ、楽しい話題作りの上手だったことをしみじみなつかしみました。

煙草の持ち方の美しいひと、ちよつとの時間も無駄にしないで何かを作っている人でした。心の暖かさがこぼれるようなあのキープスマイリングからは並々ならぬ人生修業の厳しさもチラリと見えて若い人たちを時として圧さえることもとてもお上手でした。

きやしゃで優しく、謙虚でありながら、強く逞しい信念の持主。誠実で心暖かい彼女の人は、きつとこれからも会う人たちを魅了せずにはおかないと思います。

虹^{にじ}
の
小^こ
筥^{ぼこ}

—
も
く
じ
—

第1章

豊かに生きる……

美しい女性^{ひと}

山田 恭一

藤川 延子

さわやかなふれあいは若葉風に乗って

心の虹

15

なごやかな心

19

ユニホーム

24

ひたむきに働く

28

ルーズな心

31

さりげない気くばりを

35

喰わずぎらい

40

興味を持つ

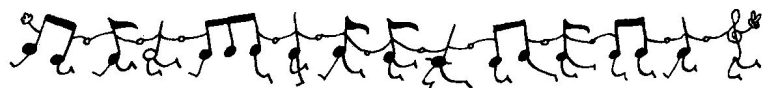
45

聞き上手

49

他店見学

53



第2章

言葉は両手にかかえて

タイミングとフィーリング

59

二人の姑

65

手は口ほどに？

69

イメージを言葉に

73

タヌキとウサギとカメ？

77

三十二個の宝石

81

おもしろ言葉

85

美しい日本語

89

お便りのあれこれ

94

ウナギ弁当とイナリ弁当

98

聞けない年齢

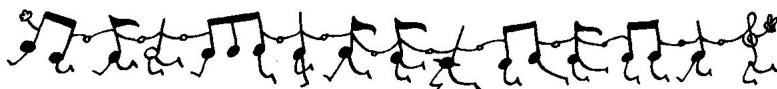
102

お金はさびしがり屋

107

心の目

111



第3章

思い出は虹の小管につめて

青い目のメリーちゃん

117

小さいものはいとおしい

121

ちちんぷいぷい

125

こよりの犬

129

冬去りて

132

涙を笑顔に

137

老いの日のために

141

小学校の先生

144

喰いしん坊のメッセーじ

149

榎たからの木の思い出から

154

第4章

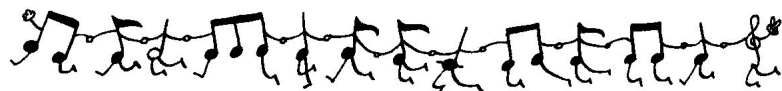
しあわせを豊かな心に包んで

手紙のマナー

161

蟬せみの誕生

164



第5章

わが家は動物園

168

慣れ

172

ピリツとけじめをつける

175

生命を生かす

179

おいしくいただく条件とは？

183

現代つ子の夜店

187

人生の節

191

天使の笑顔

195

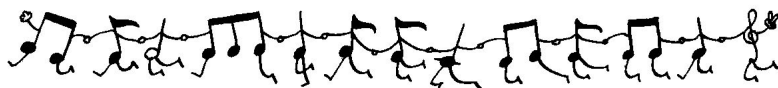
喜びも悲しみも

197

美しく生きるために

やつと生まれた虹の小宮

こぎ



第一章 さわやかなふれあい
は若葉風に乗って



春浅し見いでしつくし一本を

葉に押して君に送らむ

心の虹

お給料をもらう日というのは、この年になっても、やはり待ち遠しいものです。新入社員の方なら、たとえば袋はいささか軽くとも、自分が働いて得たものですから、なおさらでしょう。

でも、会社からいただくのは給料だけでしょうか。とんでもない。きっと、何かあるはずです。私も毎日、一つでも持って帰りたいと心がけています。といっても、品物ではありません。「心に残る何か」――。

そうしようとさえ思えば、言葉づかいの勉強とか、文字を書くおけいことか、私の場合は百貨店ですから、商品知識も身につけることができます。その方が得だとは思いませんか。心に残る何かは、一日に一つ二つはかならずあるものです。

私のとっておきのお話をいたしましょう。